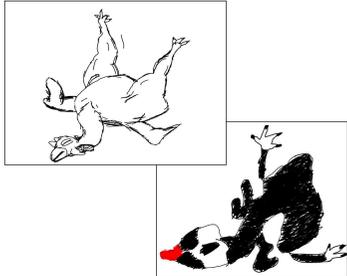


J-Trial冬 第4弾「鶏解剖～命の大切さを学ぼう」



令和6年12月14日(土)に実施しました。皆、鶏のポーズを取っています。(写真)生物学の理解を深め、鶏の体の構造や機能を直接観察しました。

まず、解剖をする前にスケッチをします。いかがですか。これらは参加者が描いたニワトリです。リアルなもの、可愛いもの、様々です。



体の部位を確かめました。手羽、もも肉、胸肉、ぼんじり等おなじみの部位です。ヒトとは違って、鳥の胸肉は翼を動かすために非常に発達しています。胸骨も前方にせり出しているのです。

体の仕組みがわかる

鶏の体は、内臓や筋肉、骨格がシンプルにまとまっています。まず、もも肉、ぼんじりを外します。硬骨や軟骨の処理がうまくいけば、比較的簡単です。もも肉と胸肉の色の違いに気づきました。

次に、手羽を胸から外します。羽を動かす腱(けん)が非常に硬く、骨も複雑に組み合わせられていて苦戦しました。もも肉の3倍の時間がかかりました。鳥にとって羽根は非常に大切な部位であることがわかります。無事にささみが取れました。

消化器系内臓

次に胸骨を外して、消化器系内臓を見えるようにしました。一番よく見える肝臓を外すと脾臓、スナギモ(砂囊)がわかります。砂囊では食べたものを砕きます。小石を入

れておいて、歯の代わりに石を使って食べ物をすりつぶしているのです。

次に腸の観察です。腸間膜の血管に気づきました。小腸から出ている血液は栄養分が豊富で、その血管を「門脈」と呼んでいます。



その他の部位

呼吸器系では肺が、循環器系では心臓が外せました。鶏の骨は軽量ながら強度があり、鳥類が飛ぶために進化した構造を学べます。最後に、頭部の解剖をしました。空気を送る気管に触ることができました。そして、脳と眼球、舌を取り出しました。のどの奥の



弁で食道と気管の入り口の片方ずつをふさいでいることが分かりました。

まとめ

鶏の解剖では、「生き物がどのように生きているか」を

実際に見ることで、教科書だけでは得られない驚きや感動を得られます。自分の目で観察することで、生物学の面白さや命の大切さを感じとれる貴重な体験をしてくれたことと思います。

参加者の感想

○普段あまり見られない鳥の内側を見られてとても面白かったです。脳みそや心臓が体の大きさに対して結構小さなのがびっくりしました。脚を見てると、恐竜の皮膚の表面に似てるからやはり祖先なんだなあと思います。(2年)

○解剖自体を初めて見たので、鳥の中身について知ることが出来ていい経験になりました。レバーの部分と肺を触ってみたら、すごく柔らかくぶよぶよしていました！鶏冠は硬いのかなと思ったら意外と柔らかくて驚きました。(2年)

○今回2回目の解剖でした。鶏の解剖で学んだことは「命を守る事」と「命を大切にす

事」です。(1年)
○初めての解剖で少し緊張したけど、実際に自分の目で見ることが出来て、とても貴重な経験でした。鶏の脳や、心臓、肺、脂肪、気管など一つひとつじっくり観察することが出来ました。また、臓器の位置も確認することが出来ました。今回の授業で、命の大切さを改めて学ぶことができました。赤塚先生、貴重な授業をありがとうございました。(1年)



臓器に触れる参加者